

《履修上の留意事項》保健医療機関での実習希望学生（3年次、4年次）は必ず履修すること。

《担当者名》巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

患者、患者を持つ家族の特性と対象・課題毎の医療ソーシャルワーク特性について実践的に学ぶ科目である。医療は地域の中に存在し、医療提供体制は地域完結型医療が志向されている。医療をめぐる課題は、同時に暮らしをめぐる課題でもある。そして、医療ソーシャルワークは、揺らぎの中にあるクライアントに出会い、ともに考え行動する。また、常に潜在的ニーズに出会い、実践する。本講義では、医療ソーシャルワーク実践をめぐる実践課題を理解するとともに、病と共に生きるクライアントの生活課題や、医療ソーシャルワーク実践に関わる自らの考えを深めていくことを目指していく。

【学修目標】

病と共に生きるクライアントの生活課題・ニーズを説明できる。

医療ソーシャルワーク業務に関わる実践事例を通し、医療ソーシャルワーク実践について説明できる。

チーム医療の構造と医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。

病に関わる生活課題や医療ソーシャルワーク実践事例等を通じ、自らの考えを述べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病者の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・病を持つことによって生じる生活課題を説明できる。 ・インシデント情報をもとに、病者の生活像を検討することができる。 ・生物-心理-社会モデルをもとに事例を創作することができる。 	巻
2	病者と家族の心理・社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント情報をもとに、病者と家族の生活像を検討することができる。 ・療養の局面別にみる心理・社会的課題を例示することができる。 	巻
3	医療ソーシャルワーカーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ソーシャルワーク実践における実践者の主な役割を例示することができる。 ・事例をもとに実践者の役割を説明することができる。 	巻
4	意思決定支援の構造と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援の構造を説明できる。 ・情報共有-合意モデルを説明できる。 ・事例をもとに意思決定支援を考えることができる。 	巻
5	社会的ハイリスク妊婦をめぐる医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ハイリスク妊婦の実情を説明できる。 ・社会的ハイリスク妊婦を取り巻く社会環境を説明できる。 ・社会的ハイリスク妊婦との医療ソーシャルワーク実践について検討することができる。 	巻
6	小児医療における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・小児在宅医療をめぐる課題を説明できる。 ・医療的ケア児や親をめぐる課題を説明できる。 ・医療的ケア児や親との医療ソーシャルワーク実践の実際について説明できる。 	高波千代子(特別講師) 巻
7	人生の転換期における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援における医療ソーシャルワーカーの役割を検討することができる。 ・選考形成支援について説明できる。 	巻
8	高次脳機能障害をめぐる医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の特性について説明できる。 ・高次脳機能障害者を取り巻く社会環境を説明できる。 ・高次脳機能障害をめぐる医療ソーシャルワーク実践について説明できる。 	玉川侑那(特別講師) 巻

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	多職種チームにおける医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種チームモデルについて説明できる。 ・多職種チームの発達段階を説明できる。 ・チームングについて説明できる。 ・信念対立説明アプローチについて説明できる。 	巻
10	ソーシャルワーカー組織のチームビルドとマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマン組織としての病院組織の特性を説明できる。 ・ソーシャルワーカー組織のマネジメントについて説明できる。 ・事例をもとにSWOT分析に取り組むことができる。 	巻
11	身元保証がない患者との医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・診療契約における身元保証の実状を説明できる。 ・身元保証がない患者の生活課題を説明できる。 ・身元保証がない患者との医療ソーシャルワーク実践を説明できる。 	不動宏平(特別講師) 巻
12	人生の最終段階における医療と在宅医療における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階における意思決定ガイドラインを説明できる。 ・在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割を概説できる。 	巻
13	家族支援における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関において家族に期待される役割を説明できる。 ・家族支援における医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。 	巻
14	地域に展開する医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の介入のスキルについて説明できる。 ・地域に展開する医療ソーシャルワーク実践の理論と実際について説明できる。 ・職能団体を活用して行う地域活動を概説できる。 	巻
15	医療ソーシャルワークが果たす社会的役割	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ソーシャルワークが果たす社会的役割について概説できる。 ・確認テスト 	巻

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(60%)、レポート等記録物(40%)

【教科書】

日本医療社会福祉協会・日本社会福祉士会『保健医療ソーシャルワーク～アドバンスト実践のために』中央法規

【参考書】

エイミー・C・エドモントン(2014) / 野津智子訳『チームが機能するとはどういうことか』英治出版
 成清美治・竹中麻由美・大野まどか(2020)『保健医療と福祉』学文社
 林祐介(2019)『効果的な退院・転院支援』旬法社
 井上寿美・笹倉千佳弘(2015)『子どもを育てない親、親が育てない子ども』生活書院
 猪飼周平(2010)『病院の世紀の理論』有斐閣

【備考】

この科目は、教職課程（福祉）では、教科に関する科目の「社会福祉援助技術」に該当する。

【学修の準備】

1. 次回の講義のテーマについての事前学習や講義内で指示する課題に取り組む。
2. 特別講師の講義を踏まえ、自分の「考え」をまとめたレポートを作成する。
3. 医療福祉に関する最新動向に関心を持ち、新聞等による情報を把握する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、4

【実務経験】

社会福祉士、認定社会福祉士（医療分野）、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

【実務経験を活かした教育内容】

病院・相談機関での医療ソーシャルワーカー(社会福祉士等)としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。